

# 「沖縄戦場にしないで」

## 県議会代表、防衛省に要請

【東京】当山勝利県議ら県議団は24日、防衛省



に木村次郎防衛政務官を訪ね、2月定例会で賛成多数で可決した対話と外交による他国との平和構築を求める意見書を手渡した。当山氏は「沖縄を再び戦場にしないよう外交と対話による平和構築に積極的な役割を果たして」と訴えた。

当山氏は「アジア太平洋地域の安全保障環境が木村次郎防衛政務官(左から5人目)に意見書を手渡す要請議員団長の当山勝利県議(同6人目) 24日、防衛省

趣旨や沖縄の現状を伝えた。県選出野党国会議員でつくる「うりずんの会」のほか、立憲民主党、国民民主党、共産党、社民党、れいわ新選組の国会議員らが参加した。

当山氏は「台湾有事の名の下に沖縄が再び戦場になるのではないかと危惧している県民が多くいる。声を上げていかなければいけない」と訴えた。(明真南斗)

厳しさを増していると言われる中、軍事力機能の増強がかえって地域の緊張を高め、不測の事態が生ずる危険性が増すことへの懸念は拭えない」と指摘した。

意見書を受け取った木村氏は「厳しい安全保障環境や安全保障関連3文書の考え方について県民に丁寧に説明していくことが重要と考えている」と答えた。

県議団は参院議員会館で野党国会議員との意見交換会も開き、意見書の